



「岡山ユネスコ協会再設立 30 周年からの新たな歩みへ」

岡山ユネスコ協会会長 池田満之

岡山のユネスコ協会は、1950年に「岡山ユネスコ協力会」として発足しました。その後、休眠状態になっていましたが、1994年に再設立させたものが、現在の「岡山ユネスコ協会」で、再設立から30周年になります。不安定な国際情勢の中で、共に生きる平和な世界を目指す「ユネスコ精神」に共感し、「多文化共生・国際理解教育」と「地球環境問題・ESD」を重点テーマに活動を続けてきました。2023年、岡山市はユネスコ創造都市ネットワークに文学分野で加盟（日本初）し、「文学創造都市おかやま」として、文学による心豊かなまちづくりに進みだしました。こうした潮流を受けて、本会も30周年の主テーマを「岡山でのユネスコ活動30年の歩みから文学による心豊かなまちづくり・人づくり」として、2024年11月10日（日）に、岡山芸術創造劇場ハレノワの小劇場にて、岡山市と記念イベントを開催しました。



30周年記念式典での記念撮影

■オープニング・開会式

◎主催者挨拶、◎来賓代表挨拶、◎来賓紹介、◎祝辞・祝電紹介、◎記念撮影

■第1部 「岡山でのユネスコ活動30年の歩みから未来を創る」

◎岡山でのユネスコ活動30年の歩み、◎ユネスコ創造都市ネットワーク（文学）

◎ビデオメッセージ「未来を創るユネスコ活動への提言」

■第2部 「文学による心豊かなまちづくり・人づくり」

◎講話 「坪田譲治文学の世界観とまちづくり」（講師：NDSU 山根知子教授）

◎ステージ 「ユネスコ創造都市・岡山の持続可能な未来に向けて」

◆ステージ発表 「文学ってなーに？」、◆ビデオメッセージ

◎発表「子どもたちからの未来へのメッセージ」

■クロージング・閉会式

◎閉会挨拶



この30周年記念イベントを契機に、岡山ユネスコ協会では「文学による心豊かなまちづくり・人づくり」を新たな活動テーマに加えました。この活動は、その後、岡山市京山地区のESD・SDGs活動等につながり、2025年1月25～26日の第20回岡山市京山地区 ESD・SDGs フェスティバル「京山からみんなと創ろう！SDGsでつながる未来」の中の京山 ESD・SDGs 対話「みんなで創ろう！京山えほんわーど」や演劇「文学ってなーに？」につながっています。



今年は第二次世界大戦が終わって80年の節目の年です。ユネスコ憲章の精神は「寛容」の精神です。他を思いやり、他の声に耳を傾けることによってしか平和は築かれません。まずは岡山から、文学による心豊かなまちづくり・人づくりを通して、対話と寛容の心を社会全体に浸透させて、共に生きる持続（永続）可能な平和な世界を創りだしていきましょう。

第26回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」開催

絵画展担当理事 上岡弘明

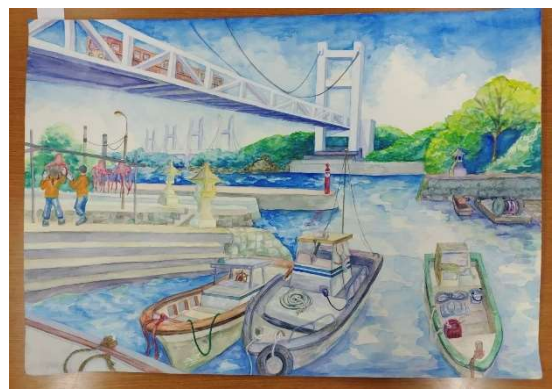
毎年恒例となっています、絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展ですが、今年度は例年より会期を延ばして2024年11月9日（土）～17日（日）の8日間実施しました。

岡山ユネスコ協会では、「岡山市内の小・中学生に岡山全体や住んでいる地域にある自然や景観、文化遺産や伝統行事など大切に残したい『たからもの』を見つけ、そのよさを絵に表現し多くの人に伝えるとともに、未来へと引き継いでいく気持ちを心に育んでほしい」と願って夏休み明けをしめきりとして作品を募集しています。今年度は234点の応募があり、その中から審査を経て入賞した68点の作品を岡山県生涯学習センター（岡山市北区伊島町3-1-1）一階に展示しました。

最終日の17日午後には特別賞3賞（日本ユネスコ協会連盟会長賞、岡山ユネスコ協会会長賞、奨励賞）、優秀賞、優良賞を受賞した児童、生徒を対象に表彰式も実施しました。
今年度の特別賞3賞は以下の通りです。



日本ユネスコ協会連盟会長賞
岡山市立三勲小学校4年 久井 杏夏さん
「後楽園の茶つみ」



岡山ユネスコ協会会長賞
岡山市立高松中学校2年 佐伯 千尋さん
「瀬戸内海」



奨励賞
岡山市立三勲小学校2年 妹島 汐音さん
「おろちたいじ」



岡山城・西大寺観音院・高松稲荷などの建築物や、瀬戸大橋・下津井漁港・吉備線やひまわり畑など心に残った美しい風景、備中神楽・後楽園の茶摘み・吉備津の三味線餅つきなどの伝統行事、「岡山旋風、おめでとう」の垂れ

幕が設置された岡山県庁・桜に囲まれた旧岡山偕行社などを主題に児童生徒が描いた力作が展示された会場では、表彰式前後に家族と記念撮影したり他の人の作品をていねいに鑑賞したりといった微笑ましい姿がたくさん見られました。

岡山ユネスコ協会主催の「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」は1999年度より実施しており25年の歴史があります。この絵画展を楽しみにして応募してくる児童生徒もいたり、毎年作品を多数出品してくださる学校も増えています。反省点もありますが、今後もより多くの学校や子どもたちに定着していただけるよう、改善を重ねてまいります。

このコンクールを通じて、子どもたちが「わたしの町」の誇れる「たからもの」を見つける目や、大切にしたい・残していきたいという郷土愛を心に育んでくれるとともに、ご家族みなさんで世界遺産や未来遺産、ESD、SDGsなど、ユネスコの精神や活動にも関心をもち、社会全体への啓発が進んでいくことを期待しています。

「第80回日本ユネスコ運動全国大会 in 新居浜 参加報告」

副会長 徳山順子・事務局 井上純貴

2024年11月23日（土・祝）、愛媛県新居浜市で開催された第80回日本ユネスコ運動全国大会 in 新居浜に参加してまいりました。

大会テーマは”持続可能な未来へ～SDGsの先進事例から学ぶ～（ESD 学びの場からの発信）”。記念講演では、住友資料館研究顧問であり、新居浜市広瀬歴史記念館の名誉館長でもあった末岡照啓氏より、「別子銅山の環境対策から新居浜港 CNP へ」と題してお話をいただきました。



新居浜市は愛媛県東予地方に位置し、瀬戸内海と四国山地に囲まれた自然豊かなまちであるとともに、別子銅山の開坑により四国屈指の工業発展を成し遂げてきました。その一方で、地域の環境保全にも正面から取り組んできたまちです。もともと小さな農漁村であった新居浜市は、住友グループ発展の礎となった別子銅山とともに共存共栄の精神で歩んできました。かつて日本三大銅山といわれた別子銅山が栄え、元禄時代から1973（昭和48）年の閉山までの280年余り、日本の銅産業を牽引し、産出された銅は日本国内で高く評価され、日本の近代化に貢献しただけでなく、地域の発展に大きく寄与しました。しかしながら、製錬所が排出する亜硫酸ガスによる煙害は農業や山野等に甚大な被害を発生させ、製錬所を新居浜市から20km沖合の四阪島に移した後も、予想に反して煙害は影響範囲を拡大させてしまいました。そこで、住友グループは煙害問題の克服や大規模な植林事業など様々な環境対策に取り組んできたほか、産銅を起点にしつつも銅山が閉山した後を見越して多くの事業を派生させた結果、新居浜市は今も工業都市として発展を続けています。



こうした別子銅山の歴史や環境問題への取り組みは SDGs の先進事例であり、児童生徒たちは先人たちの学びを生かし、持続可能な未来の実現に向けて探究活動に取り組んでいます。こうしたことから、2010（平成22）年には愛媛県立新居浜南高校が四国初のユネスコスクールに認定され、2017（平成29）年には市内の全小中学校がユネスコスクールに認定されたほか、2022年5月には「SDGs 未来都市」に選定されるなど、四国の ESD、SDGs 活動のメッカといっても過言ではありません。今回は代表校として、愛媛県立新居浜南高校ユネスコ部、新居浜市立多喜浜小学校、惣開小学校、船木中学校より

それぞれ実践発表がありました。

県立新居浜南高等学校では、別子銅山の近代化産業遺産を調査・研究していた情報科学部をユネスコ部と改称して

活動を広げています。「マイン（鉱山）からマインド（心）へ」をモットーに、ホームページやガイドブックの作成、小中学生に向けた出前授業や一般市民に向けた「あかがねの道スタディーツアー」の開催、別子銅山のボランティアガイド、産業遺産を巡るツアーの企画や運営など多岐にわたる活動を行っています。特に、ガイドブック電子版は小4～中3まで全児童生徒に引き継がれ、小・中・高・大・地域の学びのサイクルを確立し、昔と今・未来をつなぐ架け橋になりたいと活動しており、将来的に別子銅山の世界文化遺産登録を目指しています。



多喜浜小学校では、海の資源を守り、多喜浜塩田を未来に伝えようと、現在塩田は残っていませんが、ソルティ多喜浜や塩の学習館を通して、塩田ウォーク、塩田の学習、塩づくり体験、地域の方と作成した塩田かるた大会、「ソルティちゃん音頭」の踊りなどを通して、塩田精神文化の継承を行っています。「かしよい」の言葉は、塩田の仕事は大変な仕事であるが、互いに助け合って今日の多喜浜があることを誇りに思い、多喜浜塩田の素晴らしさや支えてきた人々の偉大さを知ること、故郷多喜浜を益々好きになり、海の生態系を守っていききたいという思いや願いが生まれています。

惣開小学校では、学校と地域のパートナーシップによる協働的なESD活動を通して、持続可能な共創型社会の実現を目指して、「ふるさと学習」「環境教育」「防災教育」「人権教育」の4つの柱の下、地域の方との「かかわり」「つながり」を重視した取り組みを展開しています。特に人権教育では、自分にできる社会貢献として、ユニクロ「服のチカラ」プロジェクトやペットボトルキャップを回収してワクチンに換える活動に取り組んでいます。また環境教育では、渡り蝶アサギマダラについて調べ、蝶の飛来を助けるためフジバカバガーデンを学年で作り、秋に花を咲かせ、蝶の飛来への観察・調査を通して、故郷や自然を愛する心や態度を培い、未来に豊かな自然を残していくこととする思いにつながっています。

舟木中学校では、愛媛県立と愛媛県動物園や博物館と連携して、淡水に生息し準絶滅危惧種のニホンイシガメの保護活動を行う中で、「環境に関する学習」と「自己を見つめる学習」に取り組んでいます。1年生では、ニホンイシガメの講話を聴き、カメの見分け方や甲羅の重さの量り方等を学び、2年生では、川の生物調査や水質調査を行い、3年生では、近隣の川でニホンイシガメの調査や、池を干して生物調査を直接行っています。カメ活動の理念は、「かわいい」から「よりよい環境を残したい」という環境保全への思いを広げ、人と自然との望ましい関係や、地域の自然を守るために何をすべきかを考えながら、陸の豊かさや住み続けられるまちづくりに取り組んでいます。

総括で日本ユネスコ協会連盟の鈴木理事長からは未来を予測することは困難だが、未来をつくるうえで過去の事例を学ぶことが大切だと仰っており、まさに先人たちに先見の明があり、素晴らしい知恵が今の新居浜を創ってきたのだと考えさせられました。



またアフターコロナや円安で現在の日本は外国人観光客によるインバウンド需要で観光産業は盛り上がっているものの、本当に観光だけで中長期的に日本の経済、産業は成り立つのかについても考えさせられました。

大会終了後の懇親会にも参加し、地元の食材をふんだんに使用した郷土料理や地酒などを堪能するとともに、全国各地から集まったユネスコ協会会員とも親睦を図ることができ、有意義な1日となりました。

当日は津山ユネスコ協会・鈴木昌徳会長と倉敷ユネスコ協会・小山悦司会長とも一緒に参加し、岡山県内のユネスコ協会会員で日帰り旅行のような形で学びを深めることができ、2025年11月8日（土）に倉敷市で開催予定の中国ブロッ

ク・ユネスコ活動研究会の成功に向けて良い刺激を受けました。

また、2025年度の全国大会は10月18日（土）に石川県金沢市にて開催予定で、2024年元日に発生した能登半島地震、そして同年9月の豪雨災害を踏まえ、復興に向けたまちづくりや防災にフォーカスしたプログラムを計画しているとのことで、是非とも次年度も参加したいと思います。

盛り上がった「ESD カフェ URL2024」！

～ 中高校生のプレゼンカに驚嘆！絶賛！ ～

理事 角田みどり

2024年12月15日曜日、インターキッズ（NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山）主催、岡山ユネスコ協会協賛で ESD カフェ URL 2024 をコンベンション・センター（ままかりフォーラム）1 階大研修室にて開催しました。同会場を使用するのは、今回で 2 度目となります。岡山ユネスコ協会からは、池田会長、藤木副会長、井上事務局長、そして理事・角田が世話人として参加しました。

今年も岡山下の中学校、高校から 114 名の中高生が参加したほか、引率の先生方、各グループのアドバイザー、そしてインターキッズの運営委員含めて 161 名が一同に会しました。県下で各高校から 100 名を超す大規模のカフェに成長したことを大変嬉しく思います。2021 年度から SDGs の 17 の目標についてディスカッションする形式を取っていますが、今年のテーマは「SDGs と私 ～今、私たちにできること・提案したいこと～」ということで自分たちに出来ることに加えて、何処に何を提案するかもディスカッションし、スライドにまとめて、パワポによるプレゼンテーションを行いました。



最近の中高生たちは、世の中のあらゆる社会課題に対してアンテナを張っているだけでなく、自分たちの意見を端的にまとめて自分たちの言葉で発表したり、そしてプレゼンテーション資料も自分たちで作りやすいツールを見つけて活用したりと、まさに変化の激しい時代に適応していける力を持っていることを実感させられました。これは、明らかに学校教育の中で「プレゼンテーション能力の育成」が重視され、個々の生徒の皆さんがパソコン操作力、パワポ作成能力、口頭発表力を向上させる授業の充実が大きな成果を上げている結果だと思います。

発表内容は、「男女がともに生きやすい社会環境を」「国際協力で、発展途上国に教員を増やそう」「住みやすいまちづくりを」「人や国の不平等をなくそう」「気候変動に具体的な対策を」「交通安全を意識したまちづくりを」等々、多岐にわたり、それぞれのグループで「わたしたちにできること」の提案がなされ、やはりオリジナリティ溢れる斬新な提案が光りました。指導講師は、岡山市 SDGs・ESD 推進課の服部聡子課長より「高校生らしい言葉での発信がすばらしかった。ひとつの目標の背景には、いろんな目標が隠されている。グローバルという視点で考えることが大事。」などのご助言がいただけました。

グループ発表の中締めで国際塾塾長で就実大学名誉教授の杉山慎策先生より SDGs の大半は NIMBY (Not in my Backyard, 総論賛成各論反対) という事に触られていましたが、参加した一人ひとりがどう自分事に落とし込んで行動するか、我々大人達が中高生達の声をどう社会に届けるかが課題だと思いました。





今年は初の試みで国際塾塾生の中高校生有志により当日スタッフとして受付、司会進行、グループのまとめ役なども担ってもらいましたが、皆さん大活躍してくれたほか、参加者の中高生の皆さんがいろんな経験を積んで成長している様子も窺えました。朝から夕方まで大変タイトな日程でしたが、参加された皆さんのご協力のお蔭で大盛況で終わることができ、心から感謝申し上げます。

2024 ユネスコ協会 SDGs パスポートボラン達成

SDGs パスポート担当理事 栗坂祐子

「ユネスコ協会 SDGs パスポート事業」は、小・中・高校の児童生徒がパスポートをボランティア活動への参加のきっかけのツールとし、福祉や環境、平和等の地域や世界が抱える課題を知り、自ら解決する行動力を育めるように、一人ひとりの努力を記録し応援する取組です。岡山ユネスコ協会関係では、22校の小・中・高校で約5,100名の児童・生徒が取り組んでいます。

新型コロナの5類への移行後、地域でのボランティア活動が復活し活発になってきました。

今年度は、千種小学校1名、上南中学校4名、御南中学校20名、合計25名の皆さんが30ボランを達成されました。また、上南中学校4名、城東中学校4名、御南中学校11名、操山中学校12名、後楽館高等学校1名、合計32名の皆さんが15ボランを達成されました。

30ボラン達成者には認定証と副賞、15ボラン達成者には奨励賞を贈呈しました。30ボラン達成者の中から、6名の皆さんの感想を紹介します。

＜千種小学校 信近 耕太＞

瀬戸公民館主催の瀬戸町生き物探偵団を中心に、ボランティアスタッフとして活動してきました。岡山県自然保護推進員の方に、生き物の生態を教えてもらい、自然保護の大切さを学ぶことができました。これからもボランティアスタッフとして、自然を保護する活動を続けていきたいと思いました。

＜上南中学校 山根 早葵＞

ボランティア活動は、地域の人と関わることができる一つのツールでもあると思った。一生懸命することで、地域の方の喜んでくれる笑顔とか、小学生の子たちの楽しそうな様子が見られて、とてもうれしい。また頑張りたいと思えるし、私たちがボランティア活動をすることで、地域のためになっているなら、幸いですと思う。

＜上南中学校 三浦 あかり＞

たくさんの小学生、しかも歳の離れた子と上手に交流する難しさ、そして、楽しさを知った。公民館の方や地域のお年寄りとお話するのも、普段なかなかしないから楽しかった。この経験は、大人になった時に生きてくると思うし、活かせるように頑張りたい。また、小学生と一緒にピザづくりをする活動では、ボランティアをしている側なのに、小学生に元気をもらえてなんだか嬉しくなった。ボランティアの経験は、人を豊かにすると思う。



<御南中学校 野元 花奏>

色々な種類のボランティアに参加することで、それぞれに学ぶことがあった。例えば、「海ゴミを無くすために私達にできること」のボランティアでは、学区のゴミ拾いをした。その活動では、用水路に家電や自転車などがあつたり、ゴミが道路の植え込みの陰に隠れてあつたりした。捨てた人はばれないだろうとか、ちょっとくらい大丈夫でしょなどの甘い考えでしたのだろうなと思って悲しい気持ちになった。だから、自分が意識を変えるだけでも少し良くなるから、周りの人も巻き込んで行動しようと思った。私は、ボランティアのおかげで小さい子どもからお年寄りまで、いろんな方と関わることができた。そして、災害時の行動や AED の使い方など、学校生活では詳しく学べないことを学べたので、これからもボランティアを続けていきたい。

<御南中学校 鈴木 翔大>

ボランティアをする中で、様々な背景や環境をもつ人々と関わる機会があり、彼らの経験や考え方に触れることで、自分の視点だけでなく、他者の視点を理解することの重要性を感じました。特に、複数人で行うボランティア活動では、協力し合って目標を達成するためにはチームワークが不可欠で、自分の役割を果たしつつ、他のメンバーと柔軟に連携することで、より効果的な活動ができることに気づきました。また、支援する側として参加していても、活動中に、「ありがとう。」と感謝の言葉をもらえると、やりがいと充実感が湧いてくるので、また機会があれば参加したいと思います。

<御南中学校 森 結菜>

私は、このボランティアを通して、誰かのために努力する素晴らしさを学ぶことができました。はじめは、ボランティアにあまり積極的に取り組むことができませんでしたが、募金活動や地域のボランティア活動に参加するうちに、地域の人から感謝されたり期待されたりすることが多くなりました。私は地域の方から話を聞くことで、将来この社会を引っ張っていく人間として、今後も積極的に何事にも取り組むことを頑張りたいと思うことができました。また、今起こっているごみ問題や食品ロスなどの SDGs に目を向ける機会が増え、今私達が少しでもできる対策について考えることができました。このようなボランティアだけでなく、さらに人の役に立てるような活動にも取り組んでいきたいと思います。

<編集後記>

岡山ユネスコ協会は、2025年1月26日（日）にイオンモール岡山の「岡山みらいホール」にて行われた岡山情報ビジネス学院の卒業研究でコラボしました。「岡山ユネスコ協会の活性化」をテーマに学生たちがイベントの提案を企画し、発表しました。今後もこのような若い人たちに岡山ユネスコ協会を知ってもらう機会が増えればいいと思っています。

会員の皆様方には、ユネスコの活動についてご理解いただき、今後ともご協力をお願いいたします。これからもニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想を取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。連絡はメールでもかまいません。

理事 川口 芳子

